

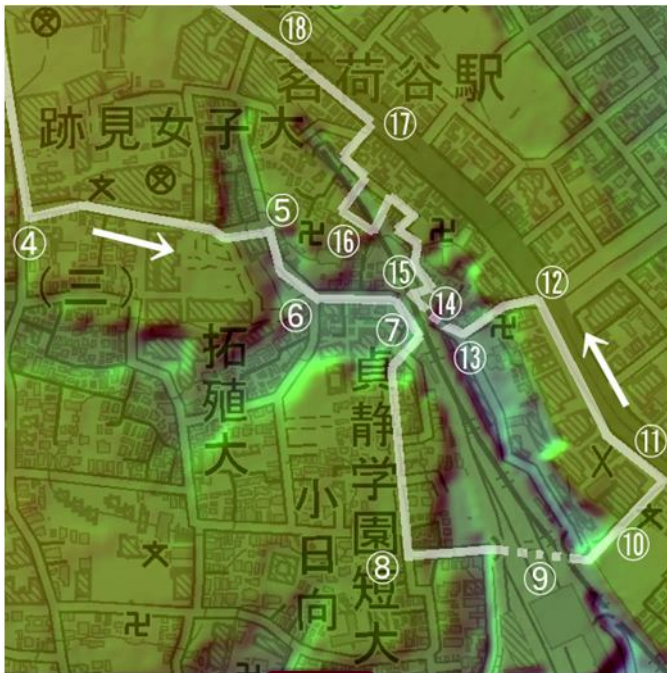
「ぐるっと茗荷谷・街たんけん(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今回の3年生の活動「ぐるっと茗荷谷・街たんけん」の目的は3つある。子どもたち向けのプリントには「町たんけん」の文字を使った。

- ① 学校のまわりにどんなもの(建物、店、看板、標識など)があるのか、実際に見て確かめる。
- ② 坂を上り下りすることによって、茗荷谷の複雑な地形を実感する。
- ③ 歩いて確かめたことをもとに、創造活動で行っている、「町のジオラマ」づくりに生かす。

これらの目的の為に、「できるだけ坂の上り下りが多い径路」「いろいろな建物やお店を見られる径路」そして何よりも「104人の子どもたちが安全に通行できる径路」を選んだ。



上図は、今回のたんけん径路の、茗荷谷付近を拡大し、色別標高図に重ねたものである。⑤→⑥→⑦、⑧→⑨→⑩→⑪、⑫→⑬→⑭→⑮のそれぞれで、茗荷谷浸食谷の段丘崖を「下りて上る」径路となっている。いずれもかなりの急坂で、段丘崖の「比高」(段丘の標高差)を実感できる坂を選んだ。日頃徒歩や自転車で通過する時は、できるだけ避けたい径路だが、今回の活動では、わざわざ疲れる径路を選んでいる。⑩→⑫、⑰→学校は、商店や公共施設(学校、交番など)が多く、これも学習には大切な区間である。



最初の坂は、拓殖大学脇の坂である。地図の⑤の地点に下る坂だ。ここは、地形的には茗荷谷の枝谷(右股)の源頭の一つで、坂の一番上が傾斜が大きくなっている。写真ではゆるやかに見えるが、自転車で通過すると、かなりきつい坂だ。この坂を下ると、茗荷谷駅方面に続く上り坂(茗荷坂)と合流する。

子どもたちの持っているのは、「たんけんボード」という、屋外観察等の画板である。表は紙が滑りにくい素材のクリップ付きのボード、裏面はポケットになっていて、筆記具はもちろん、小さな水筒ぐらいいは入る。こうした活動では荷物はできるだけ少ないほうが良いので、たんけんボードと水筒以外は持たせないようにした。



「茗荷谷」に下ると、拓殖大学正門前を通り、丸ノ内線のガードを左に見て、今度は段丘崖⑦を上る。この坂は「蛙坂(かえるざか)」といい、急なだけでなく幅員狭小で、地元の人にも嫌われている。この地点でスタートからまだ3分の1だが、暑い日だったこともあり、すでに疲れを見せている子どももいた。